

棚田ライステラス

第4号 1996.10.15
(季刊・年4回発行)

発行／全国棚田(千枚田)連絡協議会
編集／ふるきやらネットワーク・木村美江
〒160 東京都新宿区若葉1-6
エンゼルBOX101
TEL 03-3355-0420/FAX 03-3355-4220

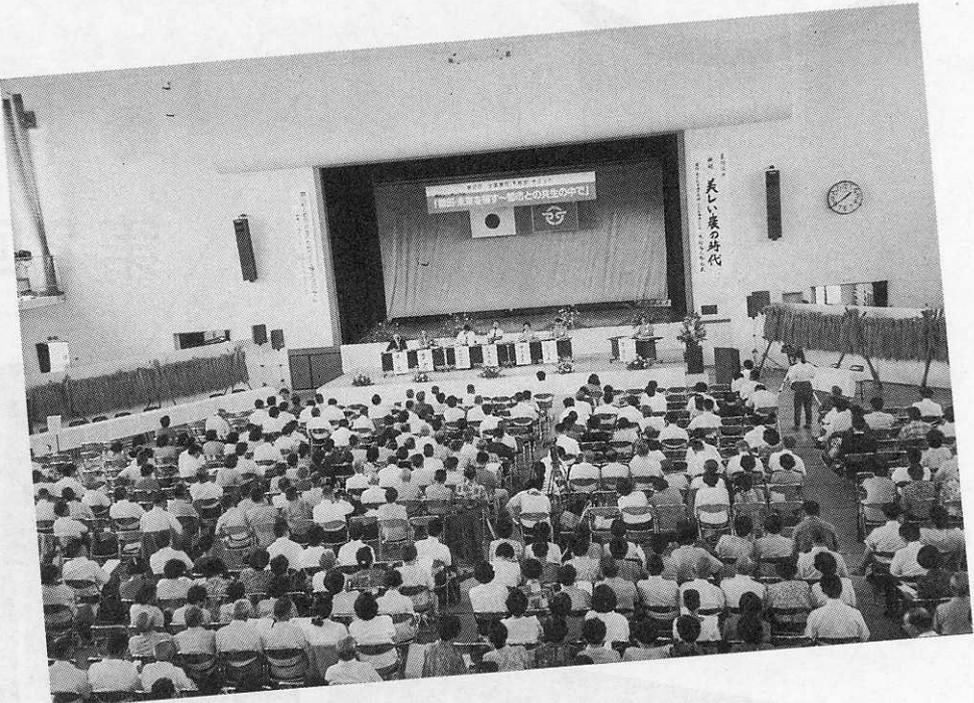
●特集● 第2回棚田サミット



前日の嵐が嘘のように晴れ渡った9月10(火)・11日(水)、佐賀県西有田町で第2回全国棚田(千枚田)サミットが行われ、148自治体46団体を含む1,126人が参加をしました。今回のテーマは『棚田・未来を耕す～都市との共生の中で』。昨年に引き続き日本型デ・カップリングの導入や、「農山村だけでなく都市住民が何をしていくべきなのか」について話し合われました。サミットは、全体的にゆったりとしたスケジュールで進められました。会議の間には、地元の大山小学校の金管バンドの元気いっぱいの演奏や室内楽のミニコンサートも行われ、“議論で疲れた頭を休めてほしい”という西有田町の配慮が感じられました。

都市との

共生を目指して…



サミットの初めに行われた棚田連絡協議会理事会には、十四市町村から三十三人が参加しました。顔見知りが増えたせいか、昨年より一段と和やかな雰囲気で会議が進められ、「情報交換をさらに活発にし、周辺の地域への呼びかけに力を入れていこう」と、ネットワークを拡大することを約束しました。

続いての総会・首長等会議は、会場を山のてっぺんにある

国見湖畔公園のテント会場に移りました。心地よい秋風と共に、前方には棚田を眼下に見下ろせる絶景が、後ろには木々に囲まれた美しいため池が、参加者を迎えてくれました。

日から翌年三月三十一日までを次期役員の任期にする」と会則の一部を改正したほか、次期会長には西有田町の藤町長が満場一致で選任されました。

基調講演は、東大名誉教授の木村尚三郎さんが『美しい農の時代』をテーマに行いました。

木村尚三郎さんは「不健康なサラリーマン生活に耐えられない。自然と結び合う生活がしたい」が

四割、「自給生産のために農業

を勉強したい」が四割だった。

いかに、全世界的に食糧危機へ

の不安と、安全な暮らしと命に

が分かれます。

今は進歩が実感できない時

代。情報やエレクトロニクス技

術は進んではいるが、それは首

基調講演 『美しい農の時代』

東京大学名誉教授

木村 尚三郎



印象的だったのは、長崎のとんかつチエーン(株)浜勝の元岡健二社長。「年間八四〇トン使うお米のうち、十八店舗分三六〇トンを棚田米にしている」と紹介したほか、「売り手も買い手も棚田の価値をきちんと把握しなければ。それが安全な食と棚田保全につながっていくはず」と参加者に力強く訴えました。

また、棚田支援市民ネットワーク代表の高野光世さんは「個

人会員の活躍できる場が欲しい。マスコミを使ってもつと協議会をPRするべき。宿泊施設の割引など会員のメリットを増やして欲しい」と、ネットワークの拡大策を提案しました。

周りのロケーションのせいか角張った議論にはなりませんでした。また、会場のあちこちで西有田の棚田の石垣の美しさや、町の取り組みを話題にした参加者同士の会話が弾んでいました。

パネルディスカッション

2日目に行われたパネルディスカッションは、日頃感じていることや疑問を明確にしたいという参加者の期待が高く、初めから積極的に議論に加わろうとしました。会場はほぼ満席。コーディネーターの岸康彦さんと、立場からパネラーのさまざまなまでの論議は昨年より、さらに具体的なものとなりました。

うことで農業を支えて欲しい」と交流の具体案を提案したほか、八十五億人になると予測されますが、それを養う技術が今はない。自分達で食べていい状況にしなければ。温暖化により水位が上がり農地が減るとの懸念もありますし。効率の良い平野部の農地は維持しつつ、いざという時に備えた食糧基地としての棚田を守つていく覚悟が必要です。佐賀県内の四割が中山間地域ですが、そこにある水田が十ヶ所の水を蓄えたとすると、北山ダムの貯水量に匹敵します。棚田を生活を支える運命

議論の中心は、都市と農村がどう共生するかということ、日本型デ・カップリングの導入。全国

とが必要。また経済効率の論理ではなく、必要なものに金を出す必要な論理を打ち出すことも大切

とする方向に変わっている。その意味で棚田は地域の宝。新たな発展や成長が望めない時代にこの宝を、いかに磨き上げながら残していくかが今後の課題です。そのためには現状を把握し「誰がどの位の費用でどんな方法で棚田を支えるのか」というノウハウを作ること

と、棚田を地域活性化に役立たせることを提案しました。また、「今までの発想を転換する農村改革もしなければ。それには都市との交流を独自の方法で戦略的に取り組むことが必要。単に都市から市内の住民が棚田の存在に感謝感動し、ファンになるアイデアが欲しい。自分の米をいかに高く買ってもらうかばかり考えていてはだめ。国民合意や税制、法律の整備はそこから始まるのだから」と、都市と農村の共生を強調しました。

さらに、コーブスが生活協同組合理事長の甲本洋子さんは「労働時間短縮を迫られるサラリーマンの余暇活用に農業を提案したい。背広ではなく、農業のできるはまり着」での交流を。消費者が生産者の顔が見える棚田産直米を買

から上で驚きや喜びを感じるもので、全身で「新鮮で楽しい」と感じられるものではありません。

そのような今の時代、高度成長期のように明日のためにひたすら働くという「時間人」の考え方から、今日一日の自分の暮らしと命を最高に輝かしたいという「空間人」の考え方へ変わってきました。また、人間同士お互い手と手をつなぎ、知恵を交換し合って生きていこうという流れもあります。明らかに歴史的な大転換期に差しかかっています。棚田を生活を支える運命

共同体と考えて、棚田の機能を学術的にも経験的にももつと議論すべき」と、語り合う重要性を述べました。

これからは、月曜から金曜まではサラリーマンをやっていても、土、日曜は田畠を耕すのが当たり前の時代になります。耕すことには三つの良い点があります。一つは自然の生命の素晴らしさに感動するようになり、人間が謙虚になる。二つは人と人と助け合うこと、つまり連帯が何よりも大切なことになる。三つは作ること、食べることを含め、新しい生命に全身に触れ

ます。自然の中で謙虚に生き、自然と結びついた生き方が出来たとき、都会の人が農村に戻ってくることでしょう。

農村も単なる生産の場から、生活を楽しむ場として変わらなければならぬ。自然とのバランスを考えた美しい生活の場をつくると、外から人が入ってきて交流が始まります。そのことで新しい文化が始まります。その点でも棚田は日本の文化財。美しい自然と人との共生の関係に対抗でくる人はいないはず。今まで、古いものは遅れたものとして否定されてきたが、人々が謙虚になる。かそういう動きもでてきていい

合理事長の甲本洋子さんは「労働時間短縮を迫られるサラリーマンの余暇活用に農業を提案したい。背広ではなく、農業のできるはまり着」での交流を。消費者が生産者の顔が見える棚田産直米を買

うことで農業を支えて欲しい」と交流の具体案を提案したほか、八十五億人になると予測されますが、それを養う技術が今はない。自分達で食べていい状況にしなければ。温暖化により水位が上がり農地が減るとの懸念もありますし。効率の良い平野部の農地は維持しつつ、いざという時に備えた食糧基地としての棚田を守つていく覚悟が必要です。佐賀県内の四割が中山間地域ですが、そこにある水田が十ヶ所の水を蓄えたとすると、北山ダムの貯水量に匹敵します。棚田を生活を支える運命

議論の中心は、都市と農村がどう共生するかということ、日本型デ・カップリングの導入。全国

とが必要。また経済効率の論理ではなく、必要なものに金を出す必要な論理を打ち出すことも大切



白熱した論議を交わしたパネラーの皆さん

有田町長の藤寛さんは、「ため池の整備や、棚田を守る農家の負担軽減や高齢化に対応した農業年金を厚生年金レベルまで引き上げるといった日本型のデ・カップリングを実現したい。農家に安心感を与える一方で、文化活動など都会の人たちを呼び込める受け皿を整備し、都市との交流を促進していただきたい。私が訴え続けている「農の心」は、田植えの労苦と共にし、収穫の喜びを分かち合うという村落共同体が培ってきた精神の連帯構造。そこに息づく相互扶助は福祉の基本。歴史的にも「非戦」を貫いてきた農作業システムは平和の象徴でもあります。伝統芸能を始めとする農業がはぐくんできた文化、環境問題、食糧の安全保障を含めこれから日本が直面する課題の解決策にならないでしようか」と、どのように行政側が対応していくのかという事をも含めて話しました。

ささらに阿蘇百姓村村長の山口力男さんが、「棚田は生産効率の悪さなど日本の農業の象徴。棚田を守れなければ日本の農業も守れない。不安定な農業情勢の中で、一時の事情や効率至上主義だけで棚田の価値を決めてしまうことに危機感を感じています。農業は産業や水源確保、福祉社会をにらんだ農村の維持につながるという価値觀にいくべきだ」と、農家の重労働を軽減する必要性を訴えました。

デ・カップリングの導入を

その問題には欠かせないデ・カップリングの導入について佐賀県西

ば棚田は守れない。日本のようには農家が金を要求することがデ・カップリング」という認識で論議していくは駄目だ」と発想の転換を厳しく訴えました。

棚田を生きた遺産に：

会場からは、国の補助に関する質問が寄せられました。その中でも、地元の棚田農家である前田正人さんは、耕作者として実感のこもつた発言をし、会場から大きな拍手が沸きました。「同じ米でも山の自然水を使った棚田米と、大量生産ができる平地米がある。収穫や労働のキツさが違うのに、農協から市場に出された時には、同じような価格で売られています。食管法がなくなつて、農家が消費者に直接米が売れるようになり光が見え始めましたが、「良い物を安く」ではなく「良い物は高い」のが当然。そういう考えが広がれば、米作りに自信を持つことができ、若い就農者も増えるはずだ」と訴えました。

それに対しパネラーの甲本さんは「それは市場の原理で決まること。もつと生産者側があちこちに出向き、棚田産直米の良さをPRするといったマーケティングの研究を進めるべき」と意見しました。また、同じくパネラーの平野さんは「都市住民に『良い物を作ったから買ってくれ』と言つても売れわけではないと思う。価格を基準に買い物をする市場主義の消費

「棚田と日本人の暮らし」の演題で講師を務めたのは、女優の浜美枝さん。司会や執筆で活躍する一方で、自ら田畠を耕し農家の暮らしを実践しています。浜さんの話を一步でも近くで聞こうと、演台の前にはイスがぎっしり。話す方も聞く方も熱氣あふれる講演になりました。

「生産者と都市に住む消費者が、信頼し合いながら農業を守る時代が来ました。今、生産者の方々にどんな想いでどんな棚田米を作っているのか、都市住民は何をすべきなのかを声を大にして話してもらいたい。そして連絡協議会には、情報や人が自由に出入りできるネットワークになつてほしい」と話し、会員になることを宣言しました。

特別講座

●浜 美枝さん

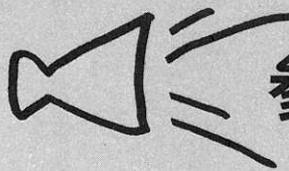
●山口力男さん

浜 美枝さん



同じく講師を務めた山口力男さんは、熊本県阿蘇町で農業をしながら都市住民向けに阿蘇百姓村を開村しました。熊本弁が光る山口さんの語りに、会場は和やかな雰囲気に包まれました。

「米の値段が高いか安いかばかり論じられていて、底にあ



参加者の声 (アンケートより)

●長時間のディスカッションでは「棚田をなぜ話題とするか」の原点を少々外れたトークが進行したようにも思いますが、内容的にはとても良かったです。私の実家では長男が棚田で毎日働いていて、それが生きがいになっています。棚田は自然を守る原点。どうするかなどと言っている場合ではない。また、むやみに支援をするのではなく、棚田の価値を伝えられる人の考えに沿って、その価値を真剣に考え「棚田の価値は生産の場だけではないんだ」とうなづいた農家の方々を対象にすればと思います。

【佐賀県コープさが 女性】

●この問題は確かに棚田米を作っている僕たちが考える必要があるが、それ以上に都市部の人も知らなければならぬと痛感した。都市の人を時給何円で雇えばいい。デスクワークで稼いだ金とは違った価値あるお金を手にできることがある。そんなお金は悪いことには使えない。交流させてくれという前に本気で働きに来て欲しい。

【広島県筒賀村 男性】

●教育の場で、次代を担う子供たちに棚田の価値観と「農」の大切さを教えていく必要があると思う。農家においても子供たちに後を継ぐ重要性を強調していくべきだ。中山間地の崩壊は、高度成長期に「ここ(中山間地)にいてもつまらない」と親が子供に対して言ったことが原因だ。これらを回復し変えなければならない。

【島根県 男性】

●私達の地域では、棚田における基盤整備構想に対し、保存だ再整備だとホットな議論がなされています。農家への責任転嫁する結論だけは聞きたくなかった私としては、意義のあるサミットだったと思います。今後も、中山間地域総合整備事業の先進事例を資料や現地で紹介してもらいたい。

【岐阜県 男性】

●人間の手で壊した自然を今になって元に戻せというのは難しい問題だが、先祖から引き継いだ自然の恵みを次代に無理なく渡せる魅力ある農業ができるようにしてほしい。忘れ物(棚田)を美しい宝物に早くしてほしい。美観と生活とがいかにうまく抱き合わせられるかがこれからの課題であろう。

【匿名】

●生産者としては「良いものは高く買え」という意見もあるが、良いものとは何であるのか。その価値は生産者が決めるものではない。市場という経済の原理に基づいて物の価格は決定されるので一概に生産者の希望通りになるものではない。棚田を守ることは地球を保全することとして、米の生産者、消費者だけの問題にせず、国民全体が関わることが必要だ。

【佐賀県武雄市 女性】

物を求める消費者と連携してはどうか。命を主体にした価値観で農村と都市がつながることが必要」と売り方について提言しました。

さらに、岐阜県恵那市の柘植順さんの「県の土地改良事業の中に棚田保全を入れるならば、農家が今より生産性を上げれるような方法を考えなければならない。それは農道などの整備は不可欠。どのような土地改良をしていこうと考えているのか」という質問に対し、パネラーの藤さんは「水路や農道などはこれから整備していく方向だが、棚田が棚田でなくなるような土地改良事業はしたくない。また、都市に棚田をアプローチする意味でも景観保全は必要だ。そういう価値観を百姓自身が持つことも必要」と答えました。



真剣に聞き入る参加者

彦さんは「農水省では、農業基本法の見直しが始まっています。農村や食糧文化など新しい視点での改正案が含まれています。その中で大きなテーマになっているのは、経済効率だけから見れば存在理由がなくなってしまう棚田のような農地をどうするかということ。国もつと論議し発言して欲しい。そして、効率優先の考え方を転換し、不効率のものをも包み込んで、本当の意味での豊かな社会を望むべきだと思います」とまとめ、熱気あふれる議論を終了しました。

最後に、コーディネーターを勤めた日本経済新聞社論説委員で農政ジャーナリストの会会長の岸康彦さんは「農水省では、農業基本法の見直しが始まっています。その中で大きなテーマになっているのは、経済効率だけから見れば存在理由がなくなってしまう棚田のような農地をどうするかということ。国もつと論議し発言して欲しい。そして、効率優先の考え方を転換し、不効率のものをも包み込んで、本当の意味での豊かな社会を望むべきだと思います」とまとめ、熱気あふれる議論を終了しました。



山口力男さん

第3回サミットに向けて

サミットの最後には、今後の活動として①直接所得補償制度の導入に積極的に取り組む②消費者・都市住民との交流を深め、国民的な理解を得るために幅広い活動を開催する——を盛り込んだ共同宣言が発表されました。また、次期開催地には、田毎の月の棚田で有名な長野県更埴市が決定し、「次回

はさらに前進した内容で語り合いましょう」と参加を呼びかけました。今回のサミットの中心の議題であった、都市と農村との共生。そのためには生産者と消費者が垣根を超えて歩み寄ること。突飛なことを始めるより、一人一人の考え方を変えることが、棚田の今後を決めるカギになります。



全国棚田（千枚田）連絡協議会



新しく会員になった皆様

正会員〔自治体〕 兵庫県 一宮町／高知県 越知町／島根県 柿木村
鹿児島県 栗野町／長崎県 福島町／長崎県 千々石町
福岡県 宝珠山村／和歌山県 清水町
徳島県 上勝町 町長 山田 良男

〔団体〕 大阪府 ヤンマー農機(株)第3営業部 多田孔工
山口県 山口県農業協同組合中央会 山崎哲夫
佐賀県 西有田町農業協同組合 池田覚
長野県 長野県土地改良事業団体連合会 小坂 善太郎

〔個人〕 高知県 西村 茂則
長野県 吉田 勝之

賛助会員 岐阜県 弓削 米藏／静岡県 犬塚 雅敏
広島県 上田 実 (平成8年9月現在・敬称略・申込み順)

新会員自治体 のご紹介

町 町長名
住 住所
T 電話番号
F FAX番号
担 担当部署

宝珠山村

町 松本 善夫
住 福岡県朝倉郡宝珠山村大字宝珠山6425
T 0946-72-2311
F 0946-72-2038
担 経済課

緑と清流の里、宝珠山村。村の面積22.56平方キロメートルの85%が山林で占められており耕地は僅かに6%に過ぎず、殆どが棚田状の農地で形成されている。本村の棚田は石を積み重ね、狭い農地をふるに活用したもので、先人の努力がうかがえる。JRのめがね橋と棚田とのコントラストが素晴らしい景色をつくり、夏は螢の乱舞がみられるのどかな山村である。

今後の取り組みとしては、耶馬日田英彦山国定公園内に位置する棚田の保存・保全を重点的に進めたいと考えている。

福島町

町 田中 敏雄
住 長崎県北松浦郡福島町塩浜免2944
T 0955-47-3111
F 0955-47-2585
担 農業経済課

福島町は佐賀県伊万里市の沖に位置し、市と福島大橋で結ばれた一島一町の小島である。島内のあちこちに棚田は見受けられるが、西側の海に面した春暖の棚田は、カメラ愛好家にとってすばらしい被写体のようだ。写真について素人の私でも、水平線に沈む夕陽に染まる水を張った棚田の光景や、秋深く黄金に輝きながら棚田や山野を映し出す夕陽は、地元の人間でさえ感動を覚える。協議会を通して各地の様子を知ることが出来ることを楽しみにしている。

清水町

町 川原 淳造
住 和歌山県有田郡清水町大字清水387-1
T 0737-25-1111
F 0737-25-0052
担 農業課 振興係

高野山を源とする有田川沿い国道480号線の眼下に広がる扇状の棚田が「あらぎ島」である。

江戸時代の先人が治水、開田されたもので、現在では、農業生産の場であると同時に、夏は緑、秋は黄金、冬は純白と四季を通じ訪れる人々の目を奪い、その特異な形端正な美しいたたずまいは、人々の心の憩いの場であり、山里清水町の農村景観の代表的な場所である。

千々石町

町 床井 一郎
住 長崎県南高来郡千々石町戊582
T 0957-37-2001
F 0957-37-2639
担 経済課 経済係

千々石町は長崎県の南部島原半島の西部に位置し、雲仙岳を頂点に扇状に広がり、西は橋湾に面している。深いみどりの谷間、こんこんと湧出する清冽、そこにふるさと千々石が息づく、山の斜面に拓けた棚田、等高線状に積まれた石垣、遠い昔から風雪に耐え、その力強さが今日のふるさと千々石を育てくれた。

私達はこの美しい棚田を本町の歴史的文化遺産として守り育て、そして貴重な資源、財産として次代に受け継いで行かなければならぬと思っている。

柿木町

町 三浦 秀史
住 島根県鹿足郡柿木村大字柿木565-1
T 08567-9-2211
F 08567-9-2344
担 経済課

大井谷千枚田は、鎌倉戦乱の時代に逃避武士一族が開拓したと言い伝えられており600年の歴史をもっている。

味が良くおいしい米が取れるため、津和野の殿様へ献上米として収めていたといわれている。日当りが良く、日照時間が長く、そして田の土も上等であるといわれている。

この様な歴史ある千枚田も、今日、徐々に奥部から荒れようとしている。

一宮町

町 田路 勝
住 兵庫県宍粟郡一宮町安積1347-1
T 0790-72-1000
F 0790-72-1596
担 農業課 産業係

一宮町の面積213.84平方kmのほとんどが山林で、谷間に沿って約700haの農地があり、中山間地域そのものである。そのうちほ場整備のできない棚田が約260haある。棚田から離れつつある農家の意識を取り戻し保全していくこと、果樹のオーナー制度や揖保川源流を活かした環境保全型農業を推進するため、山田地区での「有機の里づくり」を展開し棚田の活用を行っている。今議論されつつある農業基本法での棚田の位置付けと、デカッピングの構築を望みたい。

栗野町

町 米満 重満
住 鹿児島県姶良郡栗野町木場222
T 0995-74-3111
F 0995-74-4249
担 総務課

栗野町は、町の中心部に名水百選の「霧島山麓丸池湧水」があり、1日3万㍑の水がこんこんと湧いている。東には霧島屋久国立公園の一部である栗野岳がそびえ、西には年間途切れることなく水を流してくれる国見山があり、その山麓には「幸田」という地区が広がっている。そこでは、その名の通り“幸”せの“田”んぼから生まれた栗野町の棚田米を収穫している。

こんな大自然水と豊富である町から生まれた棚田米を今秋から売り出し始めた。先進地である皆さんアドバイスを受けながら頑張っていきたい。

越知町

町 箭野 寅喜
住 高知県高岡郡越知町越知甲1970
T 0889-26-1111
F 0889-26-3777
担 農業課 農業土木係

越知町は高知県の中部、高知市から西へ約32kmの山間地にあって、周囲は標高300~1000mの石鎚山系の支脈に囲まれたコスモスの町だ。四万十川に勝る清流と自負する仁淀川の中流域に位置し、「流水文化のまちづくり」を進めている。

かつては沢山あった棚田も過疎化と高齢化によって山林に姿を変えたり耕作放棄地になった所が多く、残念である。農道等の基盤整備も進めてはいるが、追いつかぬのが現状である。